

中期経営計画

〈計画期間〉
2018年4月～
2021年3月

NEXT VALUE

～お客さま・地域との共通価値の創造～

目指す姿

未来への変革に挑み、お客さま・地域との共通価値を創造(CSV)[※]する銀行

※ CSV : Creating Shared Value

基本方針

- 地元への積極的な資金供給による地域経済の活性化
- 本業支援とコンサルティングを通じたお客さま本位の業務運営

● 基本戦略

営業力強化戦略

法人営業
個人営業
地方創生
FinTech

課題解決や本業支援を通じたお取引先の企業価値向上
お客さま本位の業務運営と効率的なリテール営業の実践
地域の活力を創造する地方創生の推進
外部連携の強化やデジタルイノベーション技術の活用により顧客利便性を向上

生産性向上戦略

業務効率化
店舗再整備
働き方改革

従来の「やり方」や前例踏襲の「考え方」から脱却して生産性を向上
マーケットや環境変化を踏まえたチャネル最適化と経営資源の再配分
限られた時間の中で成果をあげる創意工夫、働きやすく、働きがいのある職場へ

経営力強化戦略

市場運用
コンプライアンス
リスク管理
ガバナンス

総合損益を重視し、柔軟にポジションをコントロール
強固なコンプライアンス態勢の維持・向上
リスク管理体制の高度化
企業価値の向上へ向けたガバナンス体制の充実・強化

● 計数目標

	2020年度
中小企業向け貸出金残高	2,350億円
投資信託残高	435億円
非金利収益比率 [※]	12.6%
当期純利益	10億円

※非金利収益比率＝役務取引等利益÷(業務粗利益－国債等債券関係損益)

● ごあいさつ

平素より私ども鳥取銀行に対しまして格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。このたび、2018年度の決算概要や最近の取組みなどについて紹介する「とりぎん通信／2019ミニディスクロージャー誌」を発刊いたしました。ご高覧のうえ、ご参考にしていただければ幸いです。

さて、2018年度のが国経済は、雇用や所得環境が改善し緩やかな回復基調が続いたものの、各地で発生した自然災害が広範囲な影響を及ぼしました。また、米国の保護主義姿勢の強まりや、中国経済の減速懸念を受けた海外経済の不透明感が市場に与える影響も大きく、今後とも注視していく必要があります。金融市場では、欧米の金融政策が政策金利引き上げから現状維持へと転換期を迎えるなか、日本銀行は引き続き物価目標達成までは金融緩和を維持する姿勢を明確にしており、今後も低金利環境は続くものとみられています。

このような環境の下、当行は中期経営計画「NEXT VALUE」に取り組んでおります。「営業力強化」と「生産性向上」の両立により「収益力の強化」を図るとともに、「顧客本位」のビジネスモデルを実践することにより、「未来への変革に挑み、お客さま・地域との共通価値を創造する銀行」を目指してまいります。

取締役頭取 平井 耕司



また、今回より当行の様々な取組みをSDGsの分類に準じて開示しております。今後も、地域金融機関として本業を通じた持続可能な地域社会の実現に貢献することで、企業としての中長期的な成長を目指してまいります。

今後とも皆さまの信頼とご期待にお応えできるよう全役職員が一丸となって努力してまいりますので、一層のご支援とご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

2019年6月



SDGs(持続可能な開発目標):SDGsとは、2015年「国連持続可能な開発サミット」において採択された「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ」のなかで、人間、地球および繁栄のための行動計画として掲げられた17の目標と169のターゲットからなるものです